

再評価結果 (平成16年度事業継続箇所)

担当課: 道路局国道・防災課

担当課長名: 中島 威夫

事業名 一般国道351号 <small>おおてどおり</small> 大手通拡幅 自: 新潟県長岡市表町 起終点 至: 新潟県長岡市古正寺	事業区分 一般国道	事業主体 新潟県 延長 3.6 km											
事業概要 一般国道351号は、新潟県栃尾市を起点とし、新潟県小千谷市に至る幹線道路である。 大手通拡幅での事業区間は、地元町内会、学識経験者で組織された協議会により策定された「長岡シンボルルート計画」「長岡都市景観基本計画」等の中で「長岡シンボルロード」として位置付けられている。また、当区間は「第3次渋滞対策プログラム」に位置付けられており、渋滞を解消することにより、物流の効率化、都市機能向上、日常生活圏の連携強化及び個性ある地域形成を図る。													
昭和62年度事業化	昭和21年度都市計画決定	昭和62年度用地着手	昭和63年度工事着手										
全体事業費	約177億円	事業進捗率	63%	供用済延長	2.0km								
計画交通量	30,500台/日												
費用便益比	B / C	総費用	総便益	基準年									
	(事業全体)	(残事業/事業全体)	(残事業/事業全体)	平成15年									
	1.9	43/179 億円	336/336 億円										
	(残事業)	事業費: 42/177 億円	走行時間短縮便益: 320/320 億円										
	7.7	維持管理費: 2/ 2 億円	走行費用減少便益: 12/ 12 億円										
			交通事故減少便益: 4/ 4 億円										
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保 (混雑時旅行速度が20 /h未満である区間の旅行速度が改善される) ・都市の再生 (中心市街地で行う事業である) 他12項目に該当													
関係する地方公共団体等の意見 長岡市は、周辺の栃尾市、小千谷市と共に「国道351号路線延長促進期成同盟会」を結成し、国・県に対し積極的に要望活動を行っている。													
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 大型店舗が事業区間沿線に出店したことに伴い、当地区における交通渋滞がますます深刻化している。													
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地買収を終了し、2.0kmを完成4車線供用しており、残る区間の4車線化についても今年度工事着手している。													
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 河川協議等も完了していることから、今後の大手大橋4車線化の事業促進を図る。													
施設の構造や工法の変更等 プレキャスト製品や再生材の活用、建設発生土の有効利用等コスト縮減に努めている。 新電線類地中化計画(H11～H15)」に当該工区が位置付けられたため、電線共同溝を併せて整備。													
対応方針 事業継続													
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。													
事業概要図													
<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="width: 20px; height: 10px; background-color: black;"></td> <td>供用中</td> </tr> <tr> <td style="width: 20px; height: 10px; background-color: gray;"></td> <td>事業中</td> </tr> <tr> <td style="width: 20px; height: 10px; background: repeating-linear-gradient(45deg, transparent, transparent 2px, black 2px, black 4px);"></td> <td>再評価箇所</td> </tr> <tr> <td style="width: 20px; height: 10px; background: repeating-linear-gradient(-45deg, transparent, transparent 2px, black 2px, black 4px);"></td> <td>うち供用中</td> </tr> </table>							供用中		事業中		再評価箇所		うち供用中
	供用中												
	事業中												
	再評価箇所												
	うち供用中												

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

再評価の時点までに事業区間の一部に部分供用があり、事業全体の費用便益分析に変えて、既供用区間を除く区間を対象とした費用便益分析を実施。